



山田 真山(1885~1977)  
終戦直後から宜野湾市普天間に居を構え、晩年の約20年、平和祈念像原型の制作に打ち込んだ。

1972(昭和47)年5月15日、沖縄は27年間のアメリカの統治から解放され、本土復帰(日本復帰)を果たしました。今年はその50年節目であり、様々な記念グッズが展開されています。こうした記念グッズは節目毎に登場し、1972年の復帰当時からあります。その一つが、山田真山氏デザインの「沖縄日本復帰記念メダル」です。

このメダルは、琉球政府公認第1号として発行され、その売り上げは、当時普天間のアトリエで制作中だった、沖縄平和祈念像(当時の名称は「沖縄平和慰霊像」)原型の制作資金に充てられました。

このメダル、表面には平和祈念像、裏面には天女が描かれており、実は宜野湾に馴染みの深いデザインとなっています。

## 山田真山氏デザイン 「沖縄日本復帰記念メダル」に 描かれた天女



沖縄日本復帰記念メダル(純銀)  
発行:社団法人沖縄平和慰霊像建立奉賛会



<裏面>

天女のデザインは、真山氏デザインの琉球郵便切手と同デザインと思われる。



<表面>

平和祈念像と、真山氏の理念である「宇宙即我」「地上に平和」の言葉が刻まれている。

幻のメダル?純プラチナ製の記念メダル  
ところでこのメダル、実は素材の違う4種類があり、銅(1,500円)、純銀(3,000円)、純金(63,000円)、そして純プラチナ(140,000円)製もあつたようです。純プラチナ製は高額と限定数が少なかったこともあつてか、実物の情報がなく、幻のメダルとなっています。

天女は、真山氏の理念である「宇宙即我」「地上に平和」から生まれたデザインとされていますが、真山氏が終戦直後から亡くなるまでの約30年を宜野湾で過ごしたことを考えると、羽衣伝説がデザインの創起に影響したのかもしれない。ちなみに、森川公園と宜野湾市役所には、羽衣伝説を基にした、真山氏原画の天女のレリーフがあります。

## 歴史公文書とはどんなもの?

皆さんは、「歴史公文書」という言葉を知っていますか?もしかすると、あまり聞き慣れない言葉かもしれません。

歴史公文書は、県庁や市役所などの行政機関で作成される公文書(写真・図面を含む)の中で、一定期間保存された後に歴史的に重要だと判断され、継続して保管された文書のことをいいます。

歴史公文書は時間が経つことで、当時の市民生活や行政活動の状況がわかる歴史史料になります。

例えば、博物館で保存する歴史公文書の中に、1946(昭和21)年の10月に宜野湾村長が沖縄民政府総務部長に提出した「略図調整報告二関スル件」という文書があります。当時は、各地の収容所にいる宜野湾出身者が宜野湾村に戻る時期でした。しかし、



其の62

当時の宜野湾村は移動できる字が嘉数や我如古など、一部の地域に限られており、収容所だった野嵩には村役場や学校、郵便局などの施設が集中していました。この文書では、当時の村内にある施設などを略図で報告した旨になっています。

この記録から、当時の軍用施設の位置がわかる他、米軍からの移動許可が下りていない地域が多かったことが窺えます。

このように、歴史公文書を保存することで、当時の、起きた出来事や人びとの生活背景を行政の側面から見て、現代の私たちにその様子を伝えてくれます。



▲「略図調整報告二関スル件」(1946年10月19日付)の実際の図  
『一般行政関係書』(1946年-1954年)から掲載

【問い合わせ】  
市立博物館

☎ 870-9317